講義名	コミュニケーション論				
科目区分	学部専門基礎　選択必修				
担当教員	内田　啓太郎				
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 ５時限		授業形態		
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／ 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／				
履修開始年次	２年生	単位数	2	備考	

主題と概要

情報通信ネットワークが社会にくまなく張り巡らされている現在にあって、われわれは「コミュニケーション」という言葉を日常の言葉として、考えることなく使ってはいないだろうか。「コミュニケーション」とは対面状況（faceto-face）でのコミュニケーションからモバイル機器やインターネットなと のメディアを通じたコミュニケーションまで、さまざまな状況のもとで実践される社会的行為である。この多種多様なコミュニケーションのあり方を社会学
の領域であるコミュニケーション論にもとづき講義形式の授業を行う。

到達目標

社会学の領域であるコミュニケーション論を学ぶことを通じて「コミュニケーション」を実感のともなう言葉として使えることを目指してゆく。そのために最低限必要と思われる知識の習得および理解を目指す。

提出課題

学期末に実施するレポート試験（レポート提出）の成績により評価します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

RYUKA Portal、またはその他の方法により実施する予定です。詳しくは初回授業にて説明します。

評価の基準

レポート試験の論題はコミュニケーション論に関するものであれば自由に設定して構いませんが、授業中の説明および予習復習によって得られた知見をふまえ、自らの主張を論理的に説明できることが求められます。

履修にあたっての注意・助言他

「コミュニケーション」は私たちの日常生活にあふれています。普段からそういったコミュニケーション行為・状況について興味や関心を持っていると、授業内容の理解が進みます。また授業内容についてわからないことは積極的に担当者へ質問してください。

教科書

プリント資料及び参考文献

毎回の授業ではスライドまたはレジュメを提示しますが、必要なプリント資料があれば別途配布します。ただし教師からは印刷・配布を行わないため、受講者が事前に印刷し、持参すること。また、教科書は指定しませんが、参考となる文献については随時紹介します。

授業計画

本授業の実施計画は以下の通りです。変更がある場合は随時連絡をします。

第1週 コミュニケーションと「自我」について：わたしが「わたし」であることとは何か（1）
第2週 コミュニケーションと「自我」について：わたしが「わたし」であることとは何か（2）
第3週 コミュニケーションと「自我」について：社会における「わたし」の「役割」
第4週 自己表現とコミュニケーション（1）
第5週 自己表現とコミュニケーション（2）
第6週 役割距離と役割形成
第7週 「創発的内省」とコミュニケーション
第8週 コミュニケーションの基礎概念（1）
第9週 コミュニケーションの基礎概念（2）
第10週 若者の人間関係とコミュニケーション：「若者の人間関係は本当に『希薄化』したのか」（1）
第11週 若者の人間関係とコミュニケーション：「若者の人間関係は本当に『希薄化』したのか」（2）
第12週 電子メディア上のかかわり：「『マスメディアの時代』から『かかわりのメディアの時代』へ」
第13週 ヴァーチャルな他者とのかかわり：「模倣という快楽と自己承認」
第14週 （視線）としての他者：「ファッションをめぐって」
第15週 授業全体の振り返り／レポート試験の解説

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で使用するスライド・レジュメや、その他の資料については、ネット上で公開し、アクセス可能にします。それらのスライド・レジュメや資料、また授業中に紹介する文献を読むことが、予習・復習となります。また、授業に関する質問を積極的に行い、授業内容への理解度を上げておくことも含まれます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業スライド・レジュメ等の資料はネット上で公開し、電子メールやその他のソーシャルメディアを活用し、できる限り教師と学生とのコミュニケーションを密に行う予定です。

実務経験の有無及び活用

備考

当者へは電子メール（keitaro@u-labo.org）で連絡してください。